

6/11 朝日

介護に成功報酬?

介護福祉士

(神奈川県 66)

政府は、介護サービス利用者への要介護度を改善させた事業者に対する報酬を手厚くする方針を示しました。「車椅子の生活」→「歩行訓練」→「杖を使えば自力歩行可」という図が自立支援のイメージとして示されています。

しかし、現場の実感から言えば「絵に描いたもち」。いわかる理由で要介護状態になったのかは千差万別なのに、一律のイメージを示すのは現実的ではありません。

人間の「成長神話」という観点ばかりでお年寄りを見ると、本人は追い詰められる一

方ではないでしょうか。介護というのは、死に向かうまでの「ソフトランディング」の時間を探している面もあり、介護の質が高くて要介護度が改善しないことはあります。

「ネガティブ・ケイパビリティ 答えの出ない事態に耐える力」を書いた寺木蓬生さんは言います。「医師に求められるのはすぐには治せないことを受け入れて、患者が歩む長い道のりに連れ添うこと」(5月28日読書面)だ、と。

簡単には解決できない多くのことに、介護に携わる私たちも日々直面しています。お説じもつともなイメージ図に現場は苦しめられるんだろうなあと思います。